

# 許し合い友に 僕たちの平和

米軍の空襲があった新潟県長岡市と旧日本軍の真珠湾攻撃があったハワイ州の若者の交流が続いている。今月上旬には長岡市の学生がホノルル市を訪れ、現地の高校生と共同で「青少年平和宣言」をまとめた。「友の命を失いたくない。この気持ちが恒久平和につながる」。28日(日本時間)は安倍晋三首相が真珠湾で犠牲者を慰霊し、日米の「和解」を世界に発信する。(1面参照)

「悲しみや苦悩を共有した私たちは互いの過去を許し合い、そして友になった」。両市の学生が議論し、今月6日にまと

## ハワイと新潟・長岡 学生交流

### 戦争観の違い 越えて



めた青少年平和宣言はこう強調する。  
両市が2011年から始めた交流プログラムは今回で6回目。12月5、10日、長岡市の大学生や高校生ら12人がホノルル市を訪れ、同7日(現地

真珠湾攻撃当時の爆撃について説明するホーキンスさん(24日、米ハワイ州オアフ島)＝小川望撮影

### 首相きょう真珠湾慰霊

時間)には真珠湾での追悼式にも参列した。  
学生らの議論について、交流の中心人物の一人でハワイ日米協会名誉会長のエドウィン・ホーキンスさん(67)は「勝った国と負けた国では戦争の捉え方、感覚が違ふ。そこがポイントになった」と振り返る。

戦勝国の米国では戦没者や退役軍人は英雄とみなす。敗戦国の日本では戦没者を犠牲者としてとらえることが多い。また日本では平和を「戦争がない状態」としたが、ハワイの学生は治安など

「暮らしの安心安全」も含めて平和を考える傾向があった。  
議論がかみ合わない場合、ホーキンスさんらが日米の戦争観、平和観の違いを説明し、異なる意見を尊重しあえるようにサポートした。その結果、宣言には「私たちは異なる国に生まれ、異なる教育を受け、一人ひとり和解の捉え方が違ふ」「違う意見に出会っても、強い意志を持ち続けることを学んだ」との文言が入ったという。

長岡市は1945年8月1日の空襲で1400人以上が犠牲になった。一方、ハワイ側は真珠湾攻撃の被害意識が今も残る。交流を始めた当初は歴史・文化の学習が中心で、価値観の違いをぶつけるような交流はできなかったが、ホーキンスさんは「相互理解が深まるなかで、共同で平和宣言をつくるころまで進んだ」と強調する。

参加した県立長岡大手高校2年、大橋咲良さん(16)は「これまで学んできたのは『日本から見た戦争』だった。今回は『米国から見た戦争』に触れた」と話す。大橋さんは26日、終業式で全校生徒を前にこう訴えたという。「平和には多様性がある。平和は身近なものだから、もっと興味、関心を持ってほしい」